

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	黄 蘊
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>2012 年度では、マレーシアにおける上座仏教の展開、国境をまたがる上座仏教公共圏の形成について現地調査を伴う研究を行ってきた。東南アジアの島嶼部に位置するマレーシアは、とくにマレー半島部が東南アジア大陸部と連なる中継地点であり、スリランカ、ミャンマー、タイからの上座仏教の種が早くからまかれていた。このマレーシアにおいては、19 世紀以来スリランカ系、ミャンマー系、タイ系上座仏教寺院とそれぞれの実践システムができ、多元的な「上座仏教世界」が構築されてきた。</p> <p>本年度の研究を通して、同じ上座仏教の功德観と積徳行の観念でも、それぞれの上座仏教徒がおかれている社会状況が違えば、その実践に多様なバリエーションが生じているということを明らかにしてきた。また本年度の研究では、イスラーム圏である多民族国家マレーシアの文脈に密着し、華人信者を始めとする人々にとっての上座仏教とは何か、上座仏教の「功德観」はどのように構築されるのか。信徒たちの国境を越える実践、その中での上座仏教公共圏形成の様態について研究を行った。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文</p> <p>① 2013 「マレーシアの上座仏教徒の仏教実践と積徳行」兼重努・林行夫編『功德の観念と積徳行の地域間比較研究』京都大学地域研究統合情報センター、pp.64-70。</p> <p>書評</p> <p>① 2012 書評「奥村みさ著『文化資本としてのエスニシティ——シンガポールにおける文化的アイデンティティの模索』国際書院、2009 年」、『華僑華人研究』第 9 号,pp118-122。</p> <p>学会発表</p> <p>① 2013.3 「マレーシアにおける上座仏教の展開と「仏教公共圏」——スピリチュアリティの親密圏から公共性へ」マレーシア学会関西例会、大阪市立大学。</p> <p>② 2013.1 「『東南アジアの華人教団と扶鸞信仰—徳教の拡大とネットワーク化（2011 年、風響社）とその後』、東南アジア学会関西例会/「東南アジアの社会と文化研究会」、京都大学。</p> <p>③ 2012.6 「マレーシアにおける上座仏教展開のローカル化の様相」東南アジア学会第 87 回研究大会、京都文教大学。</p>	